

# 雑誌投稿規定

## 1. 投稿の資格

本雑誌へ筆頭著者として投稿可能な者は、以下に掲げる者とする。

- 1) 本学の専任教員及び職員
- 2) 本学の非常勤講師及び臨地教授等
- 3) 本学の学生・大学院生（研修生・研究生を含む）及び卒業生
- 4) 本学学術研究会で発表した者
- 5) その他研究開発科委員会が適当と認めた者

なお、共著者については、このかぎりではない。

## 2. 原稿の種類

- 1) 原稿の種類は、総説・原著論文・研究ノート・資料・論説・その他のいずれかであり、原稿のタイトルページにそのいずれかを明記する。

【総説】 主題に関連した研究について多面的に内外の知見を集め、また文献レビューなどを行い、研究テーマについて総合的に学問的状况を概説し、考察したもの

【原著論文】 研究論文のうち、研究が独創的であり、新しい知見や理解が論理的に示されているもの

【研究ノート】 研究論文としては未整理であるが、研究として意義のあるもの

【資料】 調査・実践などで得られたもので、情報提供という観点から公表することに意義があるもの

【論説】 主題に関する理論の構築や展望、提言を示したもの

【その他】 上記のいずれにも該当しないが、公表に値するもの

- 2) 本誌に発表する論文等は、いずれも発表あるいは投稿されていないものにかぎる。

## 3. 倫理的配慮

人および動物が対象である研究は、青森県立保健大学研究倫理委員会および動物実験委員会の決定を遵守し、倫理的に配慮し、その旨を本文中に明記する。

## 4. 投稿手続き

- 1) 投稿原稿は、募集時に明示する、青森県立保健大学地域連携推進課「研究開発科委員会」の電子メールアドレス宛てに、電子メールを用いて提出する。
- 2) これが不可能な場合は、上記委員会に相談し、その指示に従うものとする。

## 5. 原稿の受付および採否

- 1) 投稿原稿の受付期間は前もって委員会より通知する。
- 2) 投稿原稿は研究推進・知的財産センター研究開発科委員会が依頼した本学教員等による査読を経て、採否を決定する。査読は原則として2回までとする。
- 3) 査読は、投稿者の希望する原稿種類にそって、別紙「査読票」の項目に従うものとする。原稿種類不適合と査読者が判断した場合には、その理由を査読意見に明記し、種別変更しての再投稿を促す意見を付す事とする。査読プロセスの中での原稿種類変更は行わない。
- 4) 第2回査読で掲載可否の意見が別れた場合は、第3査読に回すものとする。
- 5) 研究開発科委員会の判定により、原稿の修正、削除、加筆を著者に求めることがある。
- 6) 原稿の掲載順、印刷の様式は雑誌編集専門部会が決定する。
- 7) 本雑誌に掲載された論文等の著作権は青森県立保健大学に帰属する。また、その電子化についても了承したものとする。ただし、以下の権利は著者の手元に残るものとする。
  - a. 著者が自分の業績をまとめる際にその一部分として使用すること。
  - b. 著者が営利を目的とせずに行う複写。
  - c. その他、日本の著作権法に反しない利用。

## 6. 校正

著者による校正は初校のみとし、校正の際の加筆は原則として認めない。

## 7. 原稿執筆要項

- 1) 原稿は原則として、パソコン（指定のワープロソフト使用）で作成する。指定ソフトについては、募集時に明示する。他のソフトの使用を希望する場合は、事前に相談すること。
- 2) 印字書式は、縦置きA4用紙に横書き1600字（40字×40行）とする。
- 3) 投稿原稿は、図表・注を含み12枚以内とし、それを超える場合には、複数巻に分割掲載する場合がある。
- 4) タイトルページ：1ページ目に、表題、著者名、所属機関、住所、連絡先、原稿の種類、図表の数、本文の総字数（文献を除く）を記載する。
- 5) 和文要約（400字程度）、和文キーワード（5語以内）をつける。
- 6) 原著論文に関しては、英文タイトル、英文著者名、英文所属名、英文要約（200語程度）、英文キーワード（5語以内）の記載を必須とする。
- 7) 外来語はカタカナで記載する。また、外国人名、日本語訳が定着していない学術用語などは原則として原綴で書く。
- 8) 図、表および写真は、図1、表1、写真1などの通し番号をつけ、本文とは別ファイルもしくは本文の後ろにまとめておくこと。また、本文原稿内では、それぞれ挿入希望位置を明示しておくこと。
- 9) 文献は、本文に用いられたもののみを引用順に番号をつけ、本文中の引用部位に数字番号を小文字で肩書きする。

本文中に著者名を引用する場合、著者が3名を超える際には“ら<sup>1)</sup>”または“et al.<sup>2)</sup>”を用いる。本文中の文献の上付き番号は<sup>1)2)4)</sup>、<sup>1~3)</sup>とする。

- 10) 参考文献は、引用文献と別にする。
- 11) 文献の表記方法は下記にしたがって記載する。
  - ・雑誌論文：文献番号) 著者氏名：論文表題. 雑誌名, 巻(号), 最初頁-最終頁(通巻頁), 発行年(西暦)の順に書く。(編)著者が3名を超える場合は3名で打ち切り,「ら」(外国語(欧語)の場合には「et al.」)をつける。

### 【例】

- 1) 佐藤伊織, 戸村ひかり, 藤村一美ら: 生殖医療に対する市民の知識・信念・態度-不妊治療と出生前診断. 保健医療社会学論集, 15巻(1), 39-49, 2004
- 2) Stein BD, Zima BT, Elliott MN, et al: Violence exposure among school-age children in foster care: relationship to distress symptoms, *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, 40(5), 588-594, 2001

・単行本：文献番号) 著者名：論文表題, 書名, 編者名, 巻数, 版数, 発行社, 引用頁, 発行年(西暦)の順に書く。

(編)著者が3名を超える場合は3名で打ち切り,「ら」(外国語(欧語)の場合には「et al.」)をつける。

### 【例】

- 3) 樫田美雄: 調査実習としてのエスノメソドロジー. 『実践エスノメソドロジー入門』. 山崎敬一編著. 有斐閣, 85-98, 2004
- 4) Ozaki I: Tonotopic maps and short-term plasticity in the human auditory cortex. *Frontiers in human brain topography. International Congress Series 1270*. M Nakagawa, K Hirata, Y Koga, et al(eds). Elsevier. 67-73, 2004

- 12) 句読点は、横書き和文では「,」「。」(共に全角)を用い、外国語(欧語)では「,」「.」(共に半角)を用いることを原則とする。

- 13) 上記11)の規定に関連し、当該学術雑誌(のコピー)の提出を求めることがある。

## 8. その他

- 1) 別刷は30部まで無料とし、これを超える分は著者の負担とする。
- 2) カラー印刷代ならびにトレースなどを要するものの実費は著者の負担とする。ただし、依頼原稿はこのかぎりではない。

### 附則

平成11年5月6日設定

平成14年2月13日改訂

平成15年5月14日改訂

平成17年11月9日改訂

平成20年9月10日改訂

平成22年12月22日改訂

平成26年8月19日改訂